The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	二重目的語構文における下位構文の再検討 : owe, promise, guarantee に焦点をあてて
Author(s)	小林, 拓海
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2024, 2023, p. 17-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97303
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

二重目的語構文における下位構文の再検討

—owe, promise, guarantee に焦点をあてて—

小林　拓海

キーワード：構文文法、二重目的語構文、フレーム意味論

1 はじめに

本研究は二重目的語構文における下位構文の再考を目的としたものである。その中でも以下のような動詞 owe, promise, guarantee を用いた二重目的語構文に焦点をあてる。

(1) a. I owe you $5.
b. Joe promised Bob a car.
c. Chris guaranteed him the tickets.

Goldberg (1995)は二重目的語構文には‘X CAUSES Y to RECEIVE Z’というプロトタイプ的な意味が存在し、それ以外にも使用される動詞によって多義を成すと主張した。しかし (1)のような二重目的語構文は受領移送が起こっていないという、他の二重目的語構文には見られない特異性を持っている。本発表では、コーパス等での具体例に基づいて詳細に考察することで、それぞれの動詞に二重目的語構文で使用される際、制約が見られることや動詞と共起する名詞句の傾向を指摘し、owe, promise, guarantee が生起する二重目的語構文の意味的特性を明らかにしていきたい。

2 先行研究

2.1 動詞 owe, promise, guarantee を用いた二重目的語構文の意味

2.1.1 Goldberg (1995)

Goldberg (1995)は二重目的語構文の中心義を以下 Sense A とし、owe, promise, guarantee といった動詞を用いた例は、中心義から拡張されたものとしている。

Sense A. ‘X CAUSES Y to RECEIVE Z’ (central sense)

Example: Joe gave Sally the ball.

Sense B. Conditions of satisfaction imply 'X CAUSES Y to RECEIVE Z'

Example: Joe promised Bob a car.

(Modified from Goldberg 1995: 75-76)

Sense B の構文は、充足条件を満たせば Joe から Bob へと a car が移送されるということを意味する。つまり、条件が満たされない場合は直接目的語にあたる a car の移送は起こらないということになる。

2.1.2 Croft (2003)

Croft (2003)は、Goldberg (1995)で主張されていた、抽象的なレベルでの二重目的語構文が多義を成すという考えを批判し、動詞のクラスや動詞をあらかじめ明らかにしたさらなる下位レベルで構文スキーマを認定することが必要であると主張した。そこから Croft (2003)は動詞クラスを明らかにした、verb-class specific constructions と特定の動詞をスキーマに挿入した verb-specific constructions の必要性について言及した。今回は本研究に関わりのある議論に制限するため、以下 verb-specific constructions のみを紹介する。

B. [[SBJ owe OBJ1 OBJ2]/ [conditional XPoss by owing]]

[[SBJ promise OBJ1 OBJ2]/ [conditional XPoss by promising]]

[[SBJ guarantee OBJ1 OBJ2]/ [conditional XPoss by guaranteeing]]

(modified from Croft 2003: 58)

Croft (2003)は owe, promise, guarantee を埋め込んだ verb-specific constructions を提示することで、二重目的語構文は真の意味で多義ではなく、特定の動詞とその構文の意味が強く結びついているのではないかと主張した。

2.1.3 Taylor (2012)

Taylor (2012)は、Goldberg (1995)、Croft (2003)とは異なる構文観を提示している。

Constructions are regarded as whatever a speaker of a language has specifically learned.

(Taylor 2012: 126)

Taylor (2012)の主張は、構文を高次のスキーマ的なものとして捉えるのではなく、より下位レベルすなわち具体的なレベルでも捉える必要があるというものである。owe, promise, guarantee の研究は、共起する名詞句にまで焦点をあてることで、スキーマレベルの構文観では記述できない点を分析できると考える。その為、本研究は、Taylor (2012)の構文観を基に研究を進めていく方針である。

3 分析

3.1 動詞 owe, promise, guarantee を用いた二重目的語構文と他の二重目的構文の比較

今回の研究対象である 3 つの動詞を用いた二重目的語構文は、他の二重目的語構文と比較して、受領移送が起こっていないという特異性が見受けられる。

(2) ?John sent Mary a birthday card, but she didn't receive it. (大谷 2019: 9)

(3) Joe promised Bob a car, but he didn't receive it. (Modified from Goldberg 1995: 75)

二重目的語構文はモノの移送が遂行されるということが構文的特徴となっている。しかし (3)の例文は、移送が起こらなかったという文を挿入しても不自然ではない。なぜなら課された約束を守ることができない場合が想定できるからである。このように Sense B のような構文的意味を持つ二重目的語構文は、他の二重目的語構文、特にプロトタイプ的な二重目的語構文では見られなかった受領移送が含意されないという特異性を持つ。

3.2 動詞 owe の分析

3.2.1 動詞 owe と promise, guarantee を比較した際の特異な点

3 つの動詞は同じ構文的意味を持つグループとしてまとめられているが、特に owe は他の動詞と比較してみても特異な点が見受けられる。実際 Levin (1993)では、promise, guarantee は the verbs of future having と呼ばれる動詞グループに分類されているが、owe はその限りではない。以下 owe がどのような点で promise, guarantee と異なる振る舞いをするのか説明していく。

(4) She owes him $5.

(4)の例文は、前もって him が she に$5 を移送していなければ、「彼女は彼から$5 借りている」という意味の文にはならない。つまり、間接目的語から主語への移送を表す‘Y CAUSES X to RECEIVE Z’という構文が内包されている場合がある。しかしこのような点は動詞 promise, guarantee を用いた二重目的語構文にはみられない。よって、このような特徴は動詞 owe のみ見られるものとして考えられる為、個別にその振る舞いを詳細に調査する。

3.2.2 COCA を用いた動詞 owe のコロケーション

Corpus of Contemporary American English（COCA）で用例収集することで、動詞 owe がどのような名詞句と共起するのかを調べた。[owe＋noun. ALL]で検索した結果、名詞句の中でも、カテゴリーによって構文での現れ方が異なることがわかった。以下 3 つのタイプの名詞句を紹介していきたい。

3.2.2.1 金銭に関わる名詞句

COCA のデータを分析してみると、金銭に関する名詞句が多く見られた。例として money, debt, $5,等のような、金額やその性質などを表す名詞句が動詞 owe と共起していた。金銭に関わる名詞を更に詳しく検討すると、具体的な金額を指す名詞は二重目的語構文に多く用いられていることがわかった。それに対して、money や debt、などの金額を指していない名詞は二重目的語構文では用いられていないこともわかった。

(5) a. You still owe me $20 for the ticket. - Tay, we heard the alarm and.
b. I owe money to criminals... and... I don't think I'll ever find.
c. “We all owe a debt to Tony for getting Paris done, " Mr. Stern said.

(COCA)

3.2.2.2 恩義に関わる名詞句

金銭に関する名詞句だけではなく、恩義に関わる名詞句も動詞 owe と共起しうると

いうことがわかった。例として pleasure, honor, existence 等があげられる。金銭に関する名詞句との違いとして、この種の名詞句は二重目的語構文にはほとんど現れてこないという特徴があげられる。

(6) a. To what do I owe this pleasure? He asked to see you. And you indulged him.
b. uh, I owe this honor to my beautiful and very patient and very pregnant wife.
c. Thanks to which I probably owe my success today. Let's share a cab.

(COCA)

3.2.2.3 食事に関する名詞句

最後に食事に関わる名詞句を取り上げたい。コーパス内で dinner、lunch、breakfast といった名詞が動詞 owe と共起している例があった。この名詞句の特徴として、用例は少ないものの、全ての例が二重目的語構文と共起していたことがあげられる。

(7) a. I owe you... I owe you breakfast, I think. Okay. I don't... I do.
b. No, no. I thought you owe me lunch. You owe me lunch.
c. lf l do this, you owe me dinner. - l gotta go.

(COCA)

3.2.3 フレームによる動詞 owe を用いた二重目的語構文の分析

前節でみた owe を用いた二重目的語構文の構文的特徴は owe の 3 つのフレームとして記述しておかねばならない。しかし、オンライン上で語句のフレームを記述しているデータベースである Frame Net には動詞 owe のフレームが存在しなかった。そのため、COCA で収集した用例に基づき、独自で動詞 owe のフレームを作成した。以下がそのフレームである。

THE MONEY FRAME

フレーム要素: OWEE: the person who owes money
OWER: the person who gives money to the ower
MONEY: the thing which is exchanged

PRODUCT: the thing payed for

(8) You owe them $5, you better give them their $5. [owee, ower, money]

(9) You owe me $5 for the whiskey and $75 for the horse! [owee, ower, money (products)]

フレーム要素のうち OWEE, OWER, MONEY は必ず構文内に現れる必須要素 (コア要素)である。一方で PRODUCT はその限りでない。OWEE は主語で, OWER は間接目的語で MONEY は直接目的語で現れる。また PRODUCT は前置詞 for と共に構文内に現れる。

THE OBLIGATION FRAME

フレーム要素:FAVOREE: someone who is given a FAVOR

FAVORER: someone who gives a favor to FAVOREE

FAVOR: FAVOR which is transferred from favorer to FAVOREE

(10) I also owe tremendous gratitude to Professor Lynn A. Baker, whose deep passion for this topic provided. [favoree, favors, favorer (optional)]

(11) Gladly, Muse. I owe you favors from way back. [favoree, favorer, favors]

(COCA)

FAVOREE, FAVORER, そして FAVOR がフレームの要素である。FAVOREE と FAVOR は構文内に必ず現れなければならない。一方で FAVORER はその限りではない。FAVOREE は主語で、FAVORER は間接目的語もしくは前置詞 TO を用いた与格付き構文で、FAVOR は直接目的語で現れる。

THE TREATING FRAME

フレーム要素: TREATEE: the person who is treated something

TREATER: the person who treats something

MEAL: the thing which is treated by TREATER

(12) (All right, well,) you owe me dinner. That is a fair price.

(13) You owe me breakfast. " She tells me she wants a sausage McMuffin.

[TREATEE, TREATER, MEAL]

(COCA)

TREATEE, TREATER, MEAL がコアとなるフレーム要素である。TREATEE は間接目的語に、TREATER は主語に、MEAL は直接目的語に現れる。

3.2.4 既存のフレームとの比較

ここで提案した動詞 owe のフレームは FrameNet では見られないものの、他の動詞で見られる既存のフレームで代替できる可能性がある (特に owe の THE OBLIGATION FRAME は THE IMPOSING_OBLIGATION FRAME と類似している)。

THE IMPOSING_OBLIGATION FRAME (FrameNet の the imposing-obligation)より引用

フレーム要素: OBLIGATOR [OBL]: The Obligator is the person who imposes the Duty on the Responsible_party.

DUTY [DUT]: The action that the Responsible_party is obligated to perform.

RESPONSIBLE_PARTY [RESP]: The person who must perform the Duty.

(14) (It was also discovered that without her knowledge), he had COMMITTED her to a new TV series [OBLIGATOR, DUTY, RESPONSIBLE PARTY]

フレーム要素とその働きを見てわかるように、FAVOREE は OBLIGATOR に、FAVOR は DUTY に、FAVORER は RESPONSIBLE PARTY に置き換えが可能に思える。既存のフレームで代替可能なのか、また個別に owe のフレームが必要なのかという点については、まだ検討の余地がある。

3.2.3 まとめ

owe は ‘Y CAUSES X to RECEIVE Z’ という間接目的語から主語への移送が想定されるという特異な振る舞いを持つことがわかった。そして共起する名詞句によって構

文での現れ方が異なることがわかった。具体的な金額を指す名詞句、食事に関する名詞句は特に二重目的語構文との結びつきが強い。owe のフレームは、一部既存の THE IMPOSING_OBLIGATION FRAME に代替できるのではないかという懸念点もある。

3.3 動詞 promise を用いた二重目的語構文の分析

動詞 promise を用いた二重目的語構文も COCA での用例収集を基にそこから導き出される特徴をまとめる。以下は[promise＋noun. ALL]、 [promise＋pron. ALL]を検索にし、収集した例文である。

(15) a. Barack promised us change. He had the opportunity to pick Hillary.

b. Ranch sessions promise clients 30 commercially viable ideas in three days.

c. I promised them rewards that were too enticing.

d. He promised to let me go. – He promised me freedom.

e. Politicians also promise us peace, perpetual prosperity, meaning, and justice.

f. I promised you guys a good time.

(COCA)

(15a-f)の例文では、間接目的語が受け取る (受け取った）直接目的語にあたる名詞は受け取り手にとって有益なものである。これを構文的特徴として扱う方針である。

3.3.1 フレームを用いた promise の分析

Frame Net では promise のフレームが Commitment Frame として存在している。

THE COMMITMENT FRAME (FRAMENET PROMISE V.より引用)

フレーム要素: SPEAKER [Spkr]：The Speaker is the person who commits him/herself to do something.

ADDRESSEE [Add]：The Speaker's commitment can be made to an Addressee.

MESSAGE [Msg]：An expression of the commitment made by the Speaker expresses the frame element Message.

(16) You promised me you'd come to my graduation. [Speaker, Addressee, Message]

しかし、フレームの例文は二重目的語構文ではない為、それぞれのフレーム要素が二重目的語構文の場合にも適用されるのかどうか疑問が残る。 (15)の例文で直接目的語になっている名詞句を Message として分類するべきか、また別のフレーム要素を打ち立てる必要があるのかということについては今後の課題としたい。

3.3.2 まとめ

promise の場合直接目的語にあたる名詞句は間接目的語にとって有益なものが共起する可能性がある。promise は FrameNet で既存のフレームが存在する。そのフレームが二重目的語構文との親和性があるかについては検討事項である。親和性がないと判断した場合は promise のフレームに修正を加える必要がある。

3.4 動詞 guarantee を用いた二重目的語構文の分析

動詞 guarantee を用いた二重目的語構文も COCA での用例収集を基にそこから導き出される特徴をまとめる。以下は[guarantee＋pron. ALL]で検索し、収集した例文である。

(17) a. Being a member of the Cabinet doesn't guarantee you special treatment at the airport

b. a college degree doesn't guarantee you any kind of job in this shoddy economy

c. will be able to go to a top school, but even that does not guarantee you a good career. (Anything below Harvard/Yale does not guarantee you a career)

d. Money won't give you health. Money won't guarantee you love

(COCA)

guarantee については、Levin (1993)でも promise と同じ動詞クラスに分類されており、promise と大きな差が見られないように思える。しかし、無生物主語が多く使用されていることや job、career など職に関するような名詞句が共起されていることが構文的な

特徴ではないかと考えられる。

3.4.1 フレームを用いた guarantee の分析

guarantee は owe の場合と同様に、FrameNet で動詞のフレームが存在しない。その為 owe の分析のように個別に guarantee のフレームを作成するべきか、また既存のフレームでも十分代替可能であるかについては検討事項である。

3.4.2 まとめ

Levin (1993)で同じ動詞グループに分類されていることもあり、promise と同じようなタイプの振る舞いをするものとして扱っていく方針である guarantee について既存のフレームで構文的特徴の説明が可能なのか、新規のフレームを作成するべきかについては検討事項である。

4 現時点でのまとめ

owe, promise, guarantee の二重目的語構文はプロトタイプ的なものと比較して特異な振る舞いをすることから個別に研究がなされるべきである。Goldberg (1995), Croft (2003)のような構文観では owe, promise, guarantee を十分説明できないことから Taylor (2012)のレベルで構文を見て分析する。またそれぞれの動詞を用いた構文の特徴が既存のフレームで分析可能かどうか検討するべきである

参考文献

Croft, William (2003) Lexical Rules vs. Constructions: A False Dichotomy. *Motivation in Language: Studies in Honour of Günter Radden*: 49-63.

Fillmore, Charles J. (1982) Frame Semantics, *Linguistics in the Morning Calm*: 111-138.

Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions*: *A Construction Grammar Approach to Argument Structure.* Chicago: University of Chicago Press.

Goldberg, Adele E. (2006) *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language.* Oxford: Oxford University Press.

Levin, Beth (1993) *English Verb Classes and Alternations*. Chicago: University of Chicago Press.

大谷直輝 (2019)『ベーシック英語構文文法』(A Basic Guide to English Construction Grammar)東京: ひつじ書房.

Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind*. Oxford: Oxford University Press.

コーパス

Corpus of Contemporary American English (http://corpus.byu.edu/coca/) [COCA]

FrameNet (https://framenet.icsi.berkeley.edu/)